

3. 主要事業

3-1: 二輪事業

二輪市場の新しい可能性を切りひらく

ホンダの祖業である二輪事業では、各国や地域に根付いたものづくりを実践し、全世界での販売店は3万店を超え、35拠点で完成車製造を展開。年間約2,000万台を世界で販売するトップメーカーに成長しました。この世界最大のネットワークを活かしたプラットフォーム設計やグローバル供給補完体制により、ホンダらしい魅力を備えた商品と高いコスト競争力を両立させ、事業の高収益体質を維持しています。世界中のお客様の「移動のニーズ」に対応し、二輪車市場の新しい可能性を切りひらくことで、二輪車のリーディングカンパニーとして世界を牽引しています。

新しい時代に即した事業へ

若年人口が増加する新興国を中心に、今後も二輪車市場の拡大が見込まれます。また世界的に環境規制の強化が進み、先進国だけではなくインドや東南アジア諸国などの新興国でも政府による電動化目標が設定されるなど、環境意識の高まりが顕在化しています。対応策としてはモビリティの電動化が期待されていますが、その一方で新興国の電動車需要は、政府のインセンティブによる影響が大きく、かつ電力の安定供給や充電ネットワークの整備などインフラ面での課題が残ります。電動車へのシフトは不透明な要素を踏まえ、ICE車へのニーズが継続する市場、電動化が進む市場を見極めながらリソースを最適配分し、電動新興メーカーに対してはホンダの強みを活かして差別化を図っていきます。



3-2: 四輪事業

魅力ある四輪製品・サービスを全世界へ

「四輪の地図を塗り替えようじゃないか」。1963年、そんな掛け声のもと始まったホンダの四輪事業は現在、グローバルでさまざまな地域のお客様に商品を提供するまでに成長しました。これまでホンダが培ってきた「操る喜び」を時代の変化に合わせて進化させるとともに、「5つのキーファクター」における独創的な技術の創出を追求することで、「移動に伴う制約からの解放と人の可能性の拡張」という提供価値の実現を目指しています。

BEV(バッテリーEV)市場では、自動車会社のみならず異業種からさまざまなメーカーが参入し、低価格帯から高価格帯まで多種多様なBEVが投入されています。これまでホンダが強みとしてきたエンジンなどのデバイス性能による差別化が難しくなることに加え、顧客のニーズや価値観が多様化しているため、提供価値やUXによってホンダらしいBEVのアイデンティティを確立することが急務であると認識しています。今後、電動化の加速により、バッテリーに用いられるニッケル、リチウム、コバルトの需要が急拡大するとともに、鉱物など原材料の供給不足によるバッテリー価格の高騰が懸念されます。バッテリーをはじめとする部品調達のあるゆるリスクに備え、リサイクルやリユースなどの再資源化やサステナブルマテリアルの活用を推進することで、リソースサーキュレーションの実現を目指していきます。また、事業形態を電動化へ迅速にシフトチェンジさせていくために、よりスピーディーな意思決定を行うための柔軟かつ強固な組織体制を構築することが課題であると認識しています。



3-3: パワープロダクツ事業

仕事や暮らしに役立つ商品を提供

1953年、パワープロダクツ事業は、動力源としてさまざまな作業機械へ搭載が可能な汎用エンジンと、それを搭載した完成機(作業機械)の開発・製造と販売からスタート。さまざまな商品は世界中の多くのお客様にお使いいただき、2020年代初めにはパワープロダクツ事業の生産累計は1億7,000万台を超え、2023年で70周年を迎えました。現在のパワープロダクツ事業はエンジン商品に加え、持ち運び可能なバッテリーや商品の電動化など領域を拡大し、「移動と暮らしに新価値を提供する」事業へと可能性を拡げています。

「人にも地球にも、もっと優しい作業」の実現へ

環境規制の強化を背景に、小型建機領域やガーデン領域においては比較的「小型」で「短時間運転」の商品から電動化が進んでいます。その一方、ICE商品も「高出力・長時間運転」「お求めやすい価格」といった特長が用途に見合うことから、需要が継続しています。そのためホンダは電動化に軸を置きながら、ICE領域についても環境対応を進化させることで、多様化する市場ニーズへ応える必要性を認識しています。また、動力源にかかわらず、作業労働の担い手不足に伴う機械化による作業効率向上への需要は継続するとともに、「質の高い作業を効率的に行いたい」というニーズの高まりもあることから、自動化といった作業機本体の技術進化だけではなく、作業精度の改善など現状に合った商品・サービスの提供が期待されていると認識しています。



3-4: 航空機及び航空機エンジン

空を自由に移動できるモビリティの提供は、ホンダ創業当初からの夢でした。夢の実現に向けてホンダは、1986年から航空機とジェットエンジンの研究・開発を開始。2013年には小型ターボファンエンジンHF120が、米国連邦航空局(FAA)の型式認定を取得。そしてスタートから29年後の2015年12月について航空機としても型式証明を取得し、ビジネスジェット機 HondaJetを世に放ちました。コンパクトで軽量の機体でありながら、十分な広さと優れた乗り心地を両立したHondaJetは、小型ビジネスジェットを革新する存在です。空へと広がったホンダの舞台。皆様へ「自由な移動の喜び」を提供するために、これからもチャレンジを続けていきます。

HondaJet

航空機と航空機エンジンの開発は、1986年以来、ホンダにとって重要な研究・開発テーマです。2003年のHondaJetの初飛行、2006年のホンダ エアクラフトカンパニー(HACI)の設立と、ホンダは数十年にわたってこの分野で積極的に活動してきました。HondaJetは、優れた燃費効率、高い飛行性能、広いキャビンを備えた超軽量ビジネスジェット機です。これらやその他の特徴により、HondaJetは2017年から5年連続で、このカテゴリーで最も納入数の多い航空機となりました。

航空機エンジン

1986年、ホンダはジェットエンジンの研究開発に着手。2004年にHF118ターボファンエンジンの開発を成功させ、ゼネラル・エレクトリック(GE)との共同事業・共同開発を行っていきます。2013年にはGEとホンダはクラス最高の燃費性能・環境性能・耐久性を実現したHF120ターボファンエンジンを開発し、米国連邦航空局(FAA)から型式認定を取得しました。HondaJet就航以来HF120は200機*を超える機体に搭載され、世界中で活躍しています。

*HondaJet 200機目のデリバリー完了を2021年12月に発表

